

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム つどい（ひまわりの丘棟）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人一秀会		
事業所名	グループホーム つどい（ひまわりの丘棟）		
所在地	〒021-002 一関市中里字石川瀬113-1		
自己評価作成日	令和4年8月30日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人一人が安心して生活できるよう接し方や関わり方を意識した対応を心がけている。また、日々の生活の中で役割や楽しみを持ち、活き活きとした生活が送れるように、四季折々の行事やレクリエーション活動を職員も共に楽しみながら実践している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は大型ショッピングセンターに隣接し、敷地向いには地区の集会所があるなど、交通の便にも恵まれた場所に立地している。設立時に定められた理念に基づき、利用者の思いや家族の意向を大切にされた個々の生活が守られており、季節や旬を意識した食事の提供や受診の同行支援、コロナ禍で様々な制限があるものの、レクリエーションや各種イベント行事、ドライブの実施など様々な工夫がある。また、職員同士のコミュニケーションを大切にしており、いつでも、どこでも話し合える職場環境のもとで、職員の意見、提言があり、温湿度計の購入設置、ベッドなどの配置修正や入浴の段取り変更などのアイデアが採用され、介護支援の充実と職員の満足に繋がっている。管理者を始めとする職員に支援の充実、改善への意欲があり、今後の取り組みに期待したい。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事務所、リビングに掲示し、月会議では理念を復唱している。職員間のコミュニケーションを密にし、日々の支援に繋げている。	法人の定めた運営理念「その人らしい生活の継続、ぬくもりある家庭的な場の提供、地域との交流」と職員目標のもとで年度目標を立て、利用者一人一人の個性を大切に、利用者の要望に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議は現状開催できていないが、区長、民生委員、老人クラブ会長と顔を合わせ資料を配っている。また、地区伝統の五穀豊穰祈願祭等は地区の一員として職員が参加している。	コロナ禍で様々な制限がある中で、地域主催の行事や運動会への参加、集会所前での食事会の開催など、地域との交流を行っている。野菜の差し入れをいただいたり、散歩中に声を掛けられるなど、地域内の施設としてつながりを確保している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な活動は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状開催できていないが、事業所の現状報告を資料にて行っている。また、資料配布の際に委託担当員、区長、老人クラブ会長、民生委員に手渡しの際に顔を見せるようにしている。	書面会議資料を運営推進会議の委員にお渡し、利用状況や活動内容の報告を行っている。感染症対策等について、ねぎらいの言葉をいただいている。	質問や意見、提言をいただくための用紙と返信用封筒を添付するなどし、報告に留まらない「書面会議」とするよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話、メール、FAXにて情報を頂いている。不明点は担当課へ連絡又は足を運び、協力を頂いている。	市の担当課とは、メールや郵送でのやり取りが多くなっているが、介護保険の申請代行などの際、直接訪問して助言をいただくこともあり、良好な協力関係ができています。また、生活保護ケースワーカーとの情報交換も緊密に取られている。地域包括支援センターからは、入居希望者の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。事業所に身体拘束適正化委員会を設けており、定期的に勉強会を実施している。また、2か月に1度の運営推進会議にて定期的に報告をしている。	転倒防止など安全確保のためのセンサーやドアの鈴、玄関施錠などは最小限の範囲であり、予め家族や本人に説明し了解を得ている。管理者と各棟の計画作成担当で構成する委員会を隔月で開催し、スピーチロック、鍵など不要な身体拘束が行われていないか、グレーゾーンの検証などの振り返りが行われ、その結果を勉強会などで全員が共有している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	学習会を設け、職員の理解を深め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を設け、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応している。契約時に密にならないように事前に書面や電話でやり取りをし、不安や疑問点に対応するようにしている。また、解約後の疑問や不明点等も説明にて納得頂くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書の発送時に不明点があれば気軽に連絡を頂けるように記載し、意見を頂いた方には対応をするように心がけている。	利用者の好みや希望、例えば、お茶の時間では、何を飲みたいかなどは寄り添いながら確認している。家族の方とは電話でのやり取りが多くなっている。利用者の生活状況を記載した機関紙を親戚用など複数送付し、家族から感謝されている。家族から利用者の好きな演歌のCDを送って良いかなどの相談があり、希望を活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に上がった意見に関して、具体化をするように心がけている。疑問に関しては法人総務へ相談し、その後開示するようにしている。	定期的な個別面談は行っていないが、随時、管理者と職員と意見交換できる環境がある。職員からの提案で、ベッドなどの設備の位置交換、入浴の段取り変更、温湿度計の購入・設置など、幅広い改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修の支援を行っている。また、業務に伴う道具や仕組みの改良等、職員から出た意見を汲み取り、環境改善にて働きやすい職場になるよう取り組んでいる。		

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得希望者は支援を行っている。また、定期的な学習会や会議にて他職員の意見を聞く等、実践に活かせるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で電話等で情報交換や情報共有をしようとしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接面接し、困っていること、不安なこと、意向を聞いている。生活しやすい環境を作り、他利用者様との関係性も築いていけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なことを把握し、どんな生活を送りたいか意向も聞きながら家族との関係性も築いていき、サービスの提案をしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族より、今必要としていること、困っていることを引き出し、また、本人の身体状況も把握したうえで必要なサービスを提供していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活する意欲を高めるよう役割を持ちながら暮らすことができるよう支援していく。(食器付き、洗濯たたみ、配膳等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中で面会が制限されている中で最近の様子を伝えたり、何か変わったことがあった時は電話や介護記録を送っている。また、電話で安心感が得られるように努めている。		

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月行事の立案、その中で使用する物を利用者と一緒に考え、制作し、馴染みの関係性を築いてきた。コロナ禍で以前のように外出はできないが花植え等は行っている。	利用者の誕生日には、希望する馴染みの場所にドライブする取り組みがある。また、皆で出掛けるドライブでは花見、紅葉見学もあり、懐かしい郷土菓子の「がんづき」を食べて来ることもある。馴染みの美容院を続けて利用する方、各地域の敬老会で配られたものを家族等から届けられる方などがあり、馴染みの継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、得意なこと等見出して、一人一人に合った日常生活が送れるように支援している。また、職員が中に入り、会話の切っ掛けを作るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者様やその家族とその後の近況を伺ったり、関係が継続できるよう努めていくようにしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	近況を電話確認するなどしている。	利用者に寄り添い、その人らしい役割を話し合いながら、洗濯物たたみ、モップかけ、食器・テーブル拭きなどを手伝ってもらっている。家族への手紙、塗り絵やはり絵作り、カラオケなど、思いに沿った支援ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から聞き取りをして収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、水分量、排泄、バイタルチェックを毎日行っている。情報を共有して状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様ご家族様の意見を聞き、介護計画を立てている。毎月の会議では職員間で意見を出し合い反映している。	短期3ヵ月、長期6ヵ月で見直し、全体的な計画の見直しを毎年行っている。毎月、各棟の職員全員によるカンファレンスが行われ、計画作成担当者によるモニタリング、アセスメントでプランが取りまとめられている。作成過程では、家族の意向を確認し、医師や訪問看護師からの助言も反映させている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人の記録をケアチェック表に記入。職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診対応は職員が同行している。必要な物品購入も職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の訪問美容院を活用している。誕生会、行事では宅配サービス、飲食店、菓子店を利用し、楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り入居前からのかかりつけ医に通院し、ご本人の状況やご家族と相談しながら受診している。また、主治医や家族に相談し、必要に応じて受診科を増やしている。	入居前からのかかりつけ医を家族同伴で受診している。多くの場合、家族の要請で職員が同行している。受診の際には、主治医にバイタルチェック表や介護の様子などの資料を提供している。職員同行の場合、受診後には家族に報告している。精神、整形、眼科など、特別科も同様である。1名が訪問診療を受診している。コロナ禍のワクチン接種は協力医、インフルエンザの予防接種はかかりつけ医が行った。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はホームに在勤していないが、医療連携にて週に1回看護師が訪問し、状況把握を行っていただき、必要に応じてアドバイスを受け、主治医と連携するようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院先の担当看護師やソーシャルワーカーとも連携し、家族を含め本人を取り巻く環境を整えるようになっている。また、週1回程度の様子確認、様子変化時は病院、家族と連絡を取り合うようになっている。		

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」にて事前に施設の方針に関して理解頂くように努めている。また、医療機関、家族と相談しながらホームでできるところまでの支援をお伝えし、本人が不安無く過ごして頂けるように支援している。	入居時に、重度化した場合の対応を家族等に説明し、同意を得ている。3年ほど前に看取りを経験している。その際には、事前事後の職員研修会を実施するなど、万全な対応に努めることができた。現在、重度化が見られる利用者があるものの、看取り対応が必要な利用者はいない。新しい勤務者もあることから、訪問看護師の協力などを得て、本人や家族の安心に繋がる支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えマニュアルを明確にし、常に事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。併設の施設とも連携し、相談、協力等の連携体制を整えている。また、地域住民の方々にも参加して頂くこともある。	ハザードマップ上、水害が懸念される地域にあり、避難場所の確認を行っている。火災の訓練を2回実施し、うち1回は昼間の夜間想定訓練とした。運営推進会議メンバーの区長が消防団組織と関わりがあり、協力をいただいている。備蓄は5日分の食料、ガスコンロなどが備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議で話し合うなどして画一的ではなく、その方に合った声掛けや対応を心がけている。排泄時、ドアの開閉に注意を払うなど、プライバシーに注意しながら対応している。	利用者の個人情報、各々ファイルしてパソコンに入力しパスワードで管理している。職員は、その人が大切にしていることをしっかりと意識しており、呼びかけや排泄介助などにおいても利用者の心情を大切にし、プライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを話して頂いている。職員間で相談しながら希望実現に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話をすることで一人一人の心地良いペースを大切にし、日光浴や塗り絵、音楽鑑賞など、思いに寄り添いながら支援するようにしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望やその日の天候などを踏まえて話をしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、テーブル拭きなど、利用者様と話をしながら行っている。また、茶碗拭きなどお手伝いを頂きながら片付け等を行っている。	食事は、法人本部から調理したものがチルドで届き、それを加熱したものが提供されている。配膳、下膳などの一部を利用者に手伝ってもらっている。メニューは季節、旬を意識したものとなっている。おやつは、レクレーションとして、ホットケーキ、焼きそば、お好み焼きなど様々なものを皆で作って食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談し、利用者様の水分摂取、栄養バランスを確保している。入浴後にはスポーツドリンクの提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。職員が口腔状態を把握し、介助、声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意思表示、または定期的に声掛けにてトイレ誘導を行っている。夜間はその方に合った排泄介助にてパット交換やトイレ誘導を行っている。	食事前や寝る前、午睡後など、チェック表を見ながらトイレに誘導している。利用者18人中6人が日中は布パンツで声掛けなしでも大丈夫な状況になっており、自立に向けた支援に努めている。夜間は、おむつの方が3名、1名がポータブルを使用し、それ以外の方はパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録管理を行い、必要に応じて下剤調整を行っている。また、入居者様に起床時に牛乳等の乳製品の摂取も頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体の時間は決まっているが、本人の希望に応じて入浴の変更を行う等の配慮をしている。また、身体の状態や本人の希望でシャワー浴に変更もしている。	月曜から土曜の間に2回の入浴を基本としている。利用者の中には、一番風呂の希望、長く入っていたい希望などがあり、できる限り叶えるようにしている。入り口に暖簾を掲げ、入浴剤、菖蒲湯、柚子湯のほか、演歌を流すこともあり、入浴を楽しむことができる。	

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に配慮し、昼食後は午睡の時間を設け、促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容を確認し、指示通り内服できるように管理を行っている。症状に変化がある際は医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の興味や得意なことを見つけ、体操や工作等の活動の参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍の影響で病院受診以外の外出支援は行っていない。行事等で少人数に分けてのドライブを行うようにしている。	天気の良い日は、ウッドデッキでの日向ぼっこが多く、周辺の散歩に出て、地域の方に声をかけてもらったり、生花をいただいたりすることもある。コロナ禍であるが、細心の注意を払って、ドライブに力を入れている。近くの公園、少し離れた厳美溪など、棟毎に外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に事務所で預かり、職員が管理している。現在は無いと落ち着かないという方はおらず、自己管理のかたはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望にて直接電話にて話をして頂いている。また、絵葉書や手紙等、書ける方に関しては個人で準備頂き、定期的に出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてリビングの飾りなどを入居者様のみんなと一緒に作成し、飾りつけを変えている。また、共用の空間に関しては不快を感じないように都度掃除、除菌を行っている。	エアコンとFFストーブ、加湿器、空気清浄機、サーキュレーターが完備され、快適な温度、湿度が保たれている。利用者の作品、季節に応じた飾り付けがあり、6畳ほどの畳の間、ソファや椅子にそれぞれが座って過ごしている。明るく、静かで台所の音が聞こえるなど家庭的な環境があり、居心地の良さが伺われる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい (ひまわりの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子を設置し、個々が寛げる工夫をしている。ウッドデッキにはベンチを用意し天気の良い日は外気浴や散歩をし、気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様との写真を飾り、自分で作成した塗り絵や作品等を季節ごとに飾っている。	居室にはベッドとクローゼットが備えられ、エアコンと蓄熱式暖房機で室温が調節されている。扇風機や加湿器、衣装ケースなどはそれぞれが持ち込んでいる。本人の手作りのもの、家族の写真などが飾られ、安心して過ごせる環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物たたみや食器拭き等、時間によって役割分担を行い手伝って頂いている。その方に合った居室やベッドの工夫など、自立した生活が送れるように配慮している。		